



日本ASEAN交流年2003記念事業
アジアの映像
ラオス編

Images of South-East Asia Lao P.D.R.

主催 国立民族学博物館

財団法人千里文化財団

協力 文化庁

ビデオ上映とトーク

メコンとともに生きる人々 —南ラオス・チャンパサック—

9月27日（土）14:00～16:00

国立民族学博物館2階 第7セミナー室

入場自由（展示場へは別途、入館料が必要です）通訳あり

解説 ブンラップ・ケオカンナー

（チャンパサック情報文化局プロジェクトコーディネーター）

カンペット・テープカイソン

（チャンパサック県テレビ局副ディレクター・カメラマン）

司会 田邊繁治（民博教授）

ラオス人民共和国（Lao People's Democratic Republic）

面積 23万7千平方キロ（日本37万8千平方キロ）

人口 528万人（2002年）

首都 ビエンチャン

通貨単位 キープ Kip(1\$ ≈ 10,920Kip、2002年)

主要言語 ラオス語



チャンパサック県について

首都ビエンチャンから南東800kmに位置する、人口57万人のラオス最南部の県。北部と比較して平野が多く、メコン川やその支流の恵みを多く受け、ラオス最大の農作物の生産地となっています。チャンパサック県の中心、ラオス第3の都市パクセは近隣諸国との経済、交易の中継地として重要な役割を果たしています。

チャンパサック県はアンコール期にはクメールの支配下にあり、18世紀のチャンパサック王国の中心として栄えたことから、県内には当時の影響を受けた建築が数多く見られます。2001年に世界文化遺産として登録されたワット・ブーは、クメールによって5世紀頃から建設が始まったといわれる古代ヒンドゥー寺院で、ラオス南部最大の遺跡として歴史的、考古学的に注目されています。

また、日本のODAにより2000年8月に完成した橋が、カムタイ大統領によって「ラオス・日本橋」と命名されるなど、日本とも結びつきの強い地域です。この橋の完成から、パクセは南ラオスの中心として、大きく変化しようとしています。

映像について

チャンパサック県情報文化局とテレビ局のスタッフによって撮影された映像は、チャンパサック県各地に暮らす人びとの暮らしを紹介するものです。

カンボジア国境付近のメコン川流域には、シーパン・ドーン（4000の島の意）とよばれるほど多くの島があります。そんなひとつに住む一家の暮らしを紹介する映像では、家畜の世話、農作業、炊事、川での漁、炭焼きなど、早朝から夕方まで毎日くりかえされる日常を知ることができます。そして山に近い他の村の生活では、田植えや村の共同作業としておこなわれる草取りや橋を架ける様子が紹介されています。

そのほか、町の暮らしとして撮影されたパクセの生活では、新年の行事としておこなわれる美人コンテストと、それにつづくパレード、寺院でおこなわれる新年の儀式と毎週土曜日におこなわれる若者のための「のど自慢大会」の様子を紹介します。

ラオスの川や山の村の暮らし、都市パクセの今の状況を、ラオスから招いた2人の撮影スタッフに聞いてみたいと思います。